

令和7年1月7日

研修だより 58号



## 1時間に9回以上の活動を

小笠原康晃

「子どもが自ら学びだす「教えない授業」を創る（西留康雄、ぎょうせい、2023）」という本の紹介の続きです。

### 9回以上のアクティブ

アクティブとは、授業中における子どもが主体的な活動をして場面のことで、本書ではアクティブの例として、

「前時のふりかえりを一人一人が音読する時間。」

「本時の課題について話し合う時間。」

「自分の考えをノートに描く時間。」

「ペア学習の時間。」

「ふりかえりを書く時間。」

などを挙げています。

子どもたちが、自分の考えを表現したり、他者交流をしたり、他者参照したりする時間です。

これを45分の中に9回以上取り入れたい、ということです。

45分で9回以上というと、5分1回程度、子どもたちが活動する場面を設定したいということです。

しかも、1部の子ではなく、授業に参加する子ども全員ができるような活動をしていくことで、自ら学ぶことに繋がるとしています。

説明が必要な場面もあります。

しかし、その説明が5分を超えてはいけない、ということもできます。

どのような授業であっても、意識することで授業改善に繋がると思います。

まずは、教師の発問、説明、指示から改善する必要があると感じました。